2024 年 8 月 5 日現在

『心理学検定　一問一答問題集［Ａ領域編］』訂正表（初版第１～10 刷用）

●初版第２刷で訂正済み

・p. 138　Ｑ145　各市町村　→　各市区町村

●初版第４刷で訂正済み

・p. 71　Ａ037　Baddely, A. D.　→　Baddeley, A. D.

・p. 131　Ａ107　稲毛敦子　→　稲毛教子

●初版第５刷で訂正済み

・p. 215　Ａ074　９か月児　→　11 か月児

・p. 215　Ａ075　強迫性障害　→　強迫性

●初版第７刷で訂正済み

・p. 82　Ｑ068

設問の後半は正しくは以下のようになります（下線部が修正箇所）。

「…①は、より暗い長方形に隣接するため、明るく見える。一方、②はより明るい長方形に隣接するために、暗く見える。このような錯視のことを何というか。」

そして、解答はマッハ現象ではなく「シュブルール錯視」であり、解説文の前半（「マッハの帯とも呼ばれる。…名前に由来する。」）は削除します。

・p. 180　Ｑ096

Ａの記述末尾：　特性論を批判した。　→　類型論を批判した。

●初版第８刷で訂正済み

・p. 5　心理学検定の概要

第 14 回検定試験からの CBT 試験化に伴い、全面的に記述を改めました。試験の詳細については、心理学検定公式ホームページを参照してください。

・p. 131　Ａ110

検査の改訂に伴い、解説文は以下のようになります。

「本検査は、新版Ｋ式発達検査 2001、新版Ｋ式発達検査 2020 へと改訂が行われ、現在も使用されている。」

・p. 183　Ａ101

解説文は正しくは以下のようになります。

「ミシェルは特性論を批判し、人間−状況論争のきっかけをつくった。」

・p. 192　Column 2　下から 4-6 行目

ICD の改訂作業進行に伴い、以下のようになります。

「世界保健機関による ICD でも、大幅な改訂が加えられた ICD-11 が、2022 年に正式発効します。新しい用語や表現もたくさん登場します。」

・p. 215　A075　強迫性　→　強迫症

・p. 222　Q098

調査方法の変更に伴い、設問を以下の内容に変更します。

「文部科学省の調査において、小中学生の長期欠席の理由として最も多いのは、病気、経済的理由、不登校のうちのどれか。」

・p. 223　A098

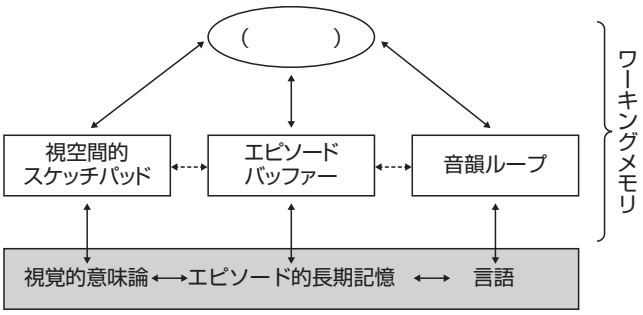
解説文は以下のようになります。

「児童生徒の問題行動・不登校等生徒指導上の諸課題に関する調査によると、年間 30 日以上の欠席である長期欠席のうち、不登校は 7 割強に当たる約 18 万 1,000 人（令和元年度）となっている。」

●初版第９刷で訂正済み

・p. 70　Q038

図は正しくは以下のようになります。



・p. 70　Q039

設問を以下の内容に変更します。

「ワーキングメモリにおいて、音韻ループ、視空間的スケッチパッド、長期記憶からの情報、知覚情報をまとまりのあるエピソードに統合することが可能な一時的貯蔵システムであると仮定されるものはどれか。」

・p. 71　A039

解説文を以下の内容に変更します。

「エピソードバッファーはワーキングメモリの概念が提唱された初期の段階では存在せず、2000 年の論文で新たに追加されたシステムである。エピソードバッファーは音韻ループ・視空間的スケッチパッドとは異なり、感覚モダリティ（感覚様相）に依存せず、複数の情報源からの情報を統合し、保持する。つまり、エピソードバッファーは長期記憶とのインターフェイスのような役割を担う。」

・p. 139　Ａ141　生活機能に支障を生じさている　→　生活機能に障害が生じている
・p. 168　Ｑ061　抹梢身体　→　末梢身体
・p. 181　Ａ095　人に支配することに価値を置く。　→　人を支配することに価値を置く。

●初版第 10 刷で訂正済み

・p. 5　心理学検定の概要

2023 年からの年 2 回化（春試験、夏試験）に伴い、試験期間の記述を改めました。試験の詳細については、心理学検定公式ホームページを参照してください。

・p. 199　Ａ021　**パンデューラ　→　バンデューラ**

・p. 208　Ｑ052

ウェクスラー式知能検査の改訂に伴い、現在では「言語性 IQ」「動作性 IQ」という用語が使用されなくなったため、設問を以下の内容に変更します（以下 p. 209、p. 235 も同様の理由により変更）。

「年齢段階に応じたウェクスラー式知能検査には、成人用の（ Ａ ）、児童用の（ Ｂ ）、幼児用の（ Ｃ ）がある。空欄Ａ～Ｃに当てはまる略称は何か。」

・p. 209　Ａ052

解答と解説文を以下の内容に変更します。

Ａ：WAIS
Ｂ：WISC
Ｃ：WPPSI

「**ウェクスラー（Wechsler, D.）**によって考案された知能検査である。WAIS は Wechsler **Adult** Intelligence Scale の略称であり、同様に WISC は Wechsler Intelligence Scale for **Children**、WPPSI は Wechsler **Preschool and Primary** Scale of Intelligence の略称である。」

・p. 235　5　臨床・障害　○×実力確認問題　25

設問を以下の内容に変更します。

「ウェクスラー式知能検査には、児童用として WISC がある。」

●初版第 11 刷で訂正済み

・p.192　Column 2　心理学における用語変更の動向

DSM-5-TR 日本語訳の公表に対応して、6 行目以降を以下の内容に改めました。

　また、時代とともに用語が変化していくことも珍しくありません。たとえば「〇〇障害」という診断名は、重いイメージ、治らないイメージが持たれやすく、誤解や偏見にもつながることなどから「〇〇症」に変更していく方向性となっています。わかりにくいものや、語感が好ましくないものも、よりよい表現へと切り換わりつつあります。

　アメリカ精神医学会による診断基準である DSM-5 の本文改訂版である DSM-5-TR の日本語訳に際しても、さまざまな変更が行われています。「〇〇障害」が併記されていたものを「〇〇症」に統一する流れが進んだほか、「精神病」を「精神症」に、「精神症状」を「神経精神症状」に、といった大きな表現の調整や、個々の診断名について下表に例として示すような変更が多くありました。なお、公表からまだ日が浅いこともありますので、本書では従前の表現を用いています。

DSM-5 から DSM-5-TR への改訂に伴う訳語の変更例

DSM-5 日本語訳（2014）	DSM-5-TR 日本語訳（2023）
選択性緘黙	場面緘黙
過食性障害	むちゃ食い症
適応障害	適応反応症
ギャンブル障害	ギャンブル行動症
境界性パーソナリティ障害	ボーダーラインパーソナリティ症
注意欠如・多動症／注意欠如・多動性障害	注意欠如多動症

　世界保健機関による疾病分類である ICD-11 でも、2022 年の正式発効を受けて、日本語病名等の調整が進められているところです。心理学を学ぶ際には、新しい動向に注意することを、そして一度覚えたらおしまいではなく、よりよい用語に切り換わったらついていくことを、心がけてください。　**（生駒 忍）**

以上

株式会社　実務教育出版